

# ホームシアター システム

---

## 取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



**警告** 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、  
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の  
取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全  
のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。  
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管して  
ください。

**HT-K215R**  
**HT-K215M**



---

## この取扱説明書の使いかた

- この取扱説明書では、本体やスピーカーでの操作のしかたを説明しています。付属のリモコンでも、本体と同じまたは似た名前のボタンを使って操作できます。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。  
☞ 知っていると便利な情報です。

本機はドルビー\*デジタルデコーダー、ドルビープロロジックサラウンドシステム、およびDTS\*\*デコーダーを搭載しています。

\* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

\*\* Digital Theater Systems, Incからの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDigital Theater Systems, Incの登録商標です。



# 目次

<b>接続する</b> .....	<b>4</b>
箱から出したら .....	4
本機を設置する .....	5
ビデオ機器を接続する .....	6
デジタル機器を接続する .....	7
<b>スピーカーの設置と接続をする</b> .....	<b>9</b>
スピーカーを設置する .....	9
スピーカーを接続する .....	10
本機のメモリーを消去する .....	12
スピーカーの接続を確認する .....	12
接続した機器の音を出してみる .....	13
<b>各部の名称と基本操作</b> .....	<b>14</b>
前面の各部の名称 .....	14
リモコンの各部の名称 .....	16
リモコンのボタン説明 .....	17
スリープタイマーを使う .....	19
<b>サラウンドを楽しむ</b> .....	<b>20</b>
サウンドフィールドを選ぶ .....	21
マルチチャンネルサラウンド表示の見かた .....	23
<b>すすんだ操作</b> .....	<b>24</b>
スピーカーを設定する .....	25
各スピーカーのレベルを調節する .....	28
サウンドフィールドを加工する .....	29
<b>その他</b> .....	<b>32</b>
使用上のご注意 .....	32
故障かな？と思ったら .....	33
保証書とアフターサービス .....	34
主な仕様 .....	35
用語解説 .....	36
SURRボタン、LEVELボタン、SET UPボタンを使った 設定 .....	37
索引 .....	38



# 接続する

この章では、お手持ちのオーディオ／ビデオ機器と本機の接続のしかたを説明します。

接続する前に必ずお読みください。

## 箱から出したら

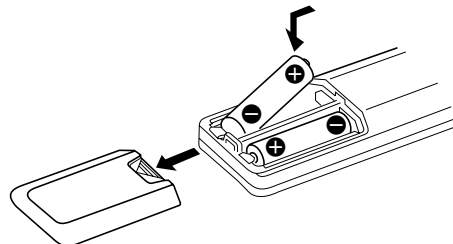
次の付属品がそろっているかを確認してください。

- リモコン (1)
- ソニー単3形乾電池 (NS) (2)
- サテライトスピーカー (5)
- サブウーファー (1)
- スピーカーコード (長) (2)
- スピーカーコード (短) (3)
- モノラルオーディオ接続コード (1)
- 光デジタル接続ケーブル (1)
- スピーカーパッド一式 (20)
- スピーカー用シール一式 (5)
- アンプスタンド用ねじ (1)
- アンプスタンド (1)
- 安全のために (1)
- スピーカー接続ガイド (1)
- スピーカースタンドのご案内 (1)
- テクニカルインフォメーションセンターのご案内 (1)
- ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内 (1)
- 保証書 (1)

もし、付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

### リモコンに電池を入れる


⊕と⊖の向きを合わせて、単3形乾電池 (付属) 2個を入れる。



 乾電池の寿命は約6か月です。

残りが少なくなると、リモコンで操作できる距離が短くなります。これを目安にして、2個とも新しい乾電池に交換してください。

### ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
  - － ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
  - － 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - － 乾電池は充電しないでください。
  - － 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - － 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

### 接続についてのご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。
- すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。

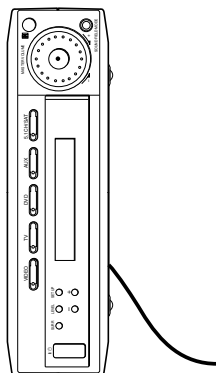


# 本機を設置する

本機はアンプスタンドにのせることができます。ただし、本機の上には何も置かないようにしてください。

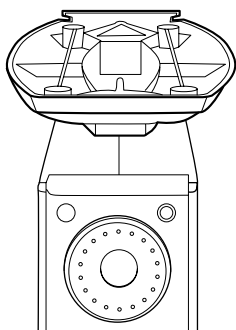
## 1 本機を横にする。

アンプスタンドはどちらの側面にも取り付けられます。



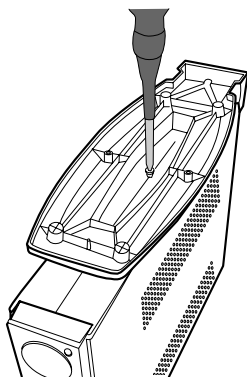
## 2 アンプスタンドを本機の上に置く。

アンプスタンドの穴と本体の穴が合うようにします。

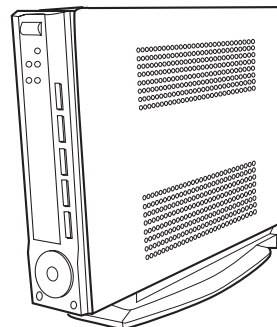


## 3 アンプスタンドを押してアンプにはめこむ。

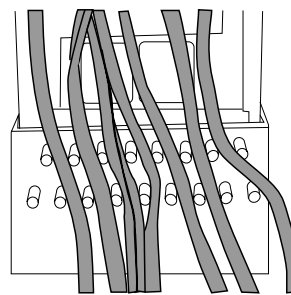
## 4 ねじで固くしめる。



## 5 本機を平らなところに置く。



💡 下のように電源コードや他のコードをアンプスタンドに通して整理することができます





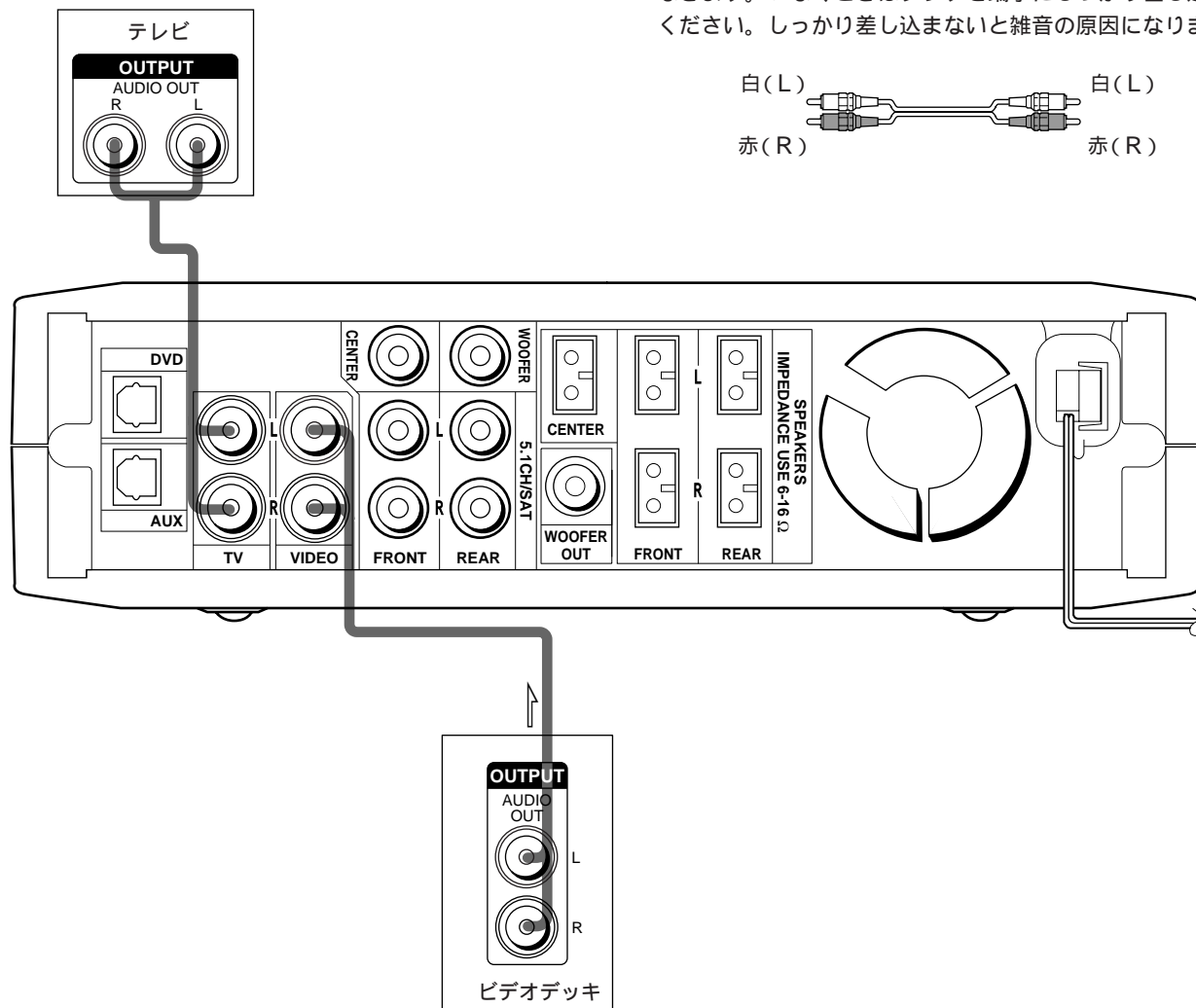
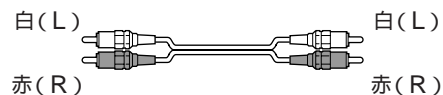
# ビデオ機器を接続する

接続する

## 必要な接続コード

オーディオ接続コード(別売り)

白(L)端子には白プラグを、赤(R)端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音の原因になります。



## ビデオ機器をつなぐ端子

つなぐもの	つなぐ端子
テレビ	TV端子
ビデオデッキ	VIDEO端子

ご注意

- テレビの音声出力端子が1個しかない場合は、別売りのオーディオ接続コード(モノラル・ステレオ変換)でつないでください。テレビに音声出力端子がない場合は本機に接続できません。
- テレビの音はフロントスピーカー(L/R)とサブウーファーから出ます。リアスピーカーから音を出すときには、サウンドフィールドでノーマルサラウンドを選んでください(21ページ)。



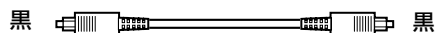
# デジタル機器を接続する

DVDプレーヤーや他のオーディオ機器（CDプレーヤー、“プレイステーション 2”など）のデジタル出力端子を本機のデジタル入力端子につなぐと、映画館のようなマルチチャンネルサラウンド効果を楽しむことができます。

その際、DVDプレーヤーなどのビデオ出力端子をテレビのビデオ入力端子につないでください。

## 必要な接続コード

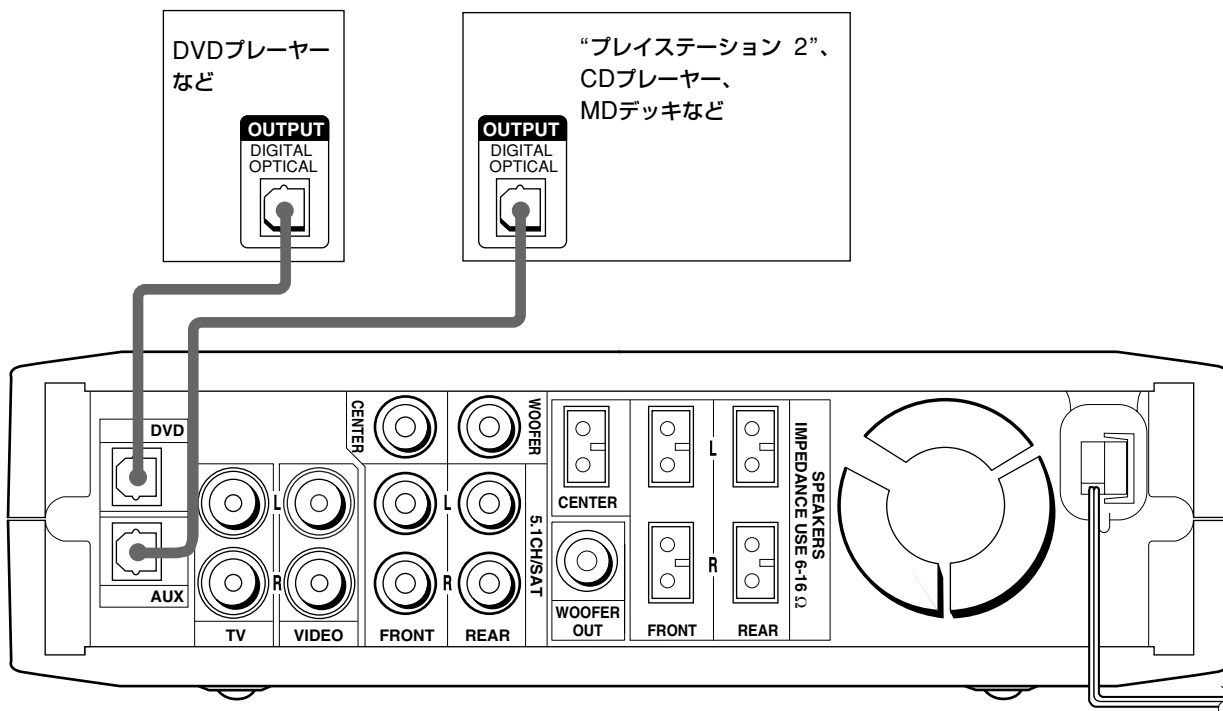
光デジタル接続ケーブル（付属）



### ご注意

本機の光デジタル入力端子は、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。

接続する



## “プレイステーション 2” やDVDプレーヤーでDVDソフトをお楽しみいただくために

光デジタル接続コードを使って、“プレイステーション 2” やDVDプレーヤーのDIGITAL OUT端子と本機を接続したときは、設定画面で以下の設定をしてください。

### ＜“プレイステーション 2” の場合＞

- 1 設定画面で「オーディオ設定」を選ぶ。
- 2 「音声デジタル出力」を選ぶ。
- 3 「光デジタル出力」を「入」にする。
- 4 「ドルビーデジタル」を「入」にする。
- 5 「DTS」を「入」にする。

### ＜DVDプレーヤーの場合＞

- 1 設定画面で「オーディオ設定」を選ぶ。
- 2 「オーディオDRC」を「ワイドレンジ」にする。
- 3 「音声デジタル出力」を「入」にする。
- 4 「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」にする。
- 5 「DTS」を「入」にする。

\* 上記の設定はソニー製DVDプレーヤーの例です。

詳しくは、それぞれの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

“プレイステーション”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。



## 5.1CH／SAT入力に接続する

マルチチャンネルデコーダーを本機の5.1CH／SAT入力端子につないで、ドルビーデジタル、DTS以外のフォーマットで記録されたマルチチャンネルの音声をお楽しみいただくこともできます。マルチチャンネルデコーダーなどを接続する際は、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

## 必要な接続コード

オーディオ接続コード (別売り)

5.1CH／SATのFRONT (L／R) 端子とREAR (L／R) 端子、CENTER／WOOFER端子接続用に3本必要です。

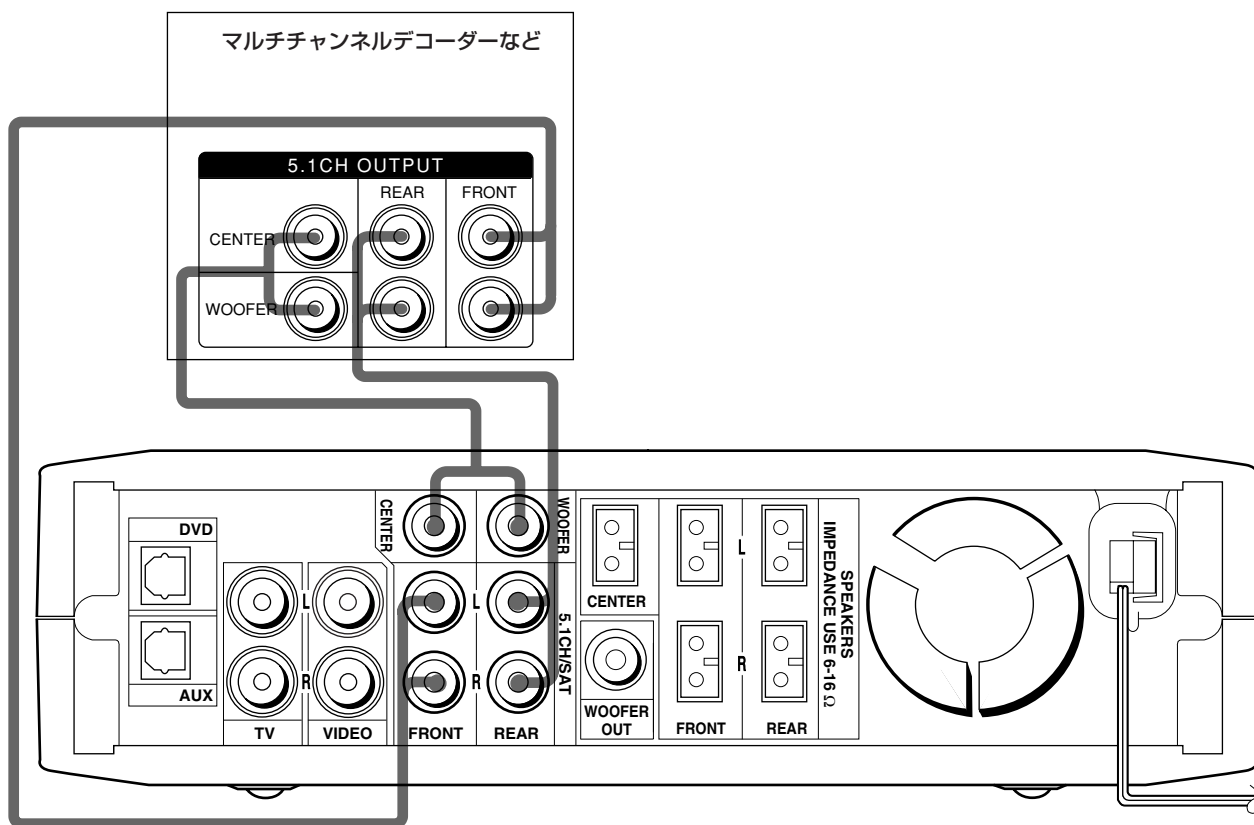


CENTER／WOOFER端子を接続するときは、下図のように必ずCENTER端子どうし、WOOFER端子どうしをつないでください。



### ご注意

下図のようにマルチチャンネルデコーダーを接続するときは、マルチチャンネルデコーダー側でサラウンドスピーカー、センタースピーカーとサブウーファーのレベルを調節します。





# スピーカーの設置と接続をする

この章ではスピーカーの設置のしかた、スピーカーの接続のしかたについて説明します。

## スピーカーを設置する

サラウンド効果を十分に楽しむためには、左右のスピーカーをリスニングポジションからなるべく等距離に設置してください。

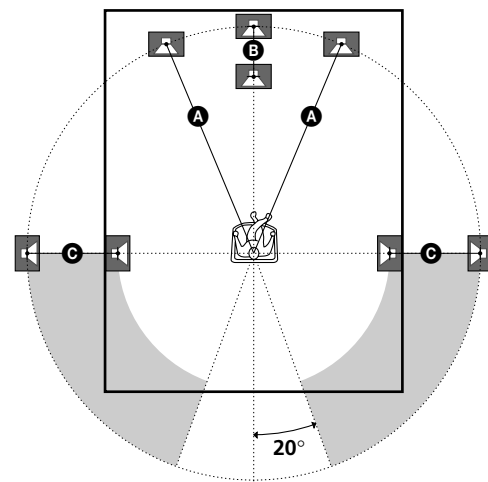
フロントスピーカーは、リスニングポジションから1～12 mのところに設置してください（下図の**A**）。

フロントスピーカーに対して、センタースピーカーを約1.5 m（下図の**B**）、リアスピーカーを約4.5 m（下図の**C**）まで近づけて置くことができます。

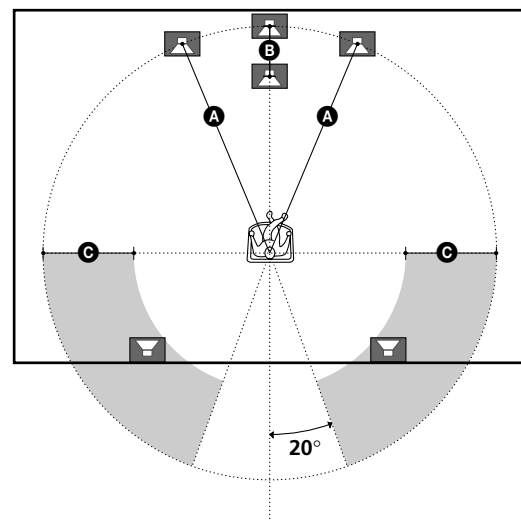
リアスピーカーは、部屋の形に応じてリスニングポジションの横に置くことも後ろに置くこともできます。

サブウーファーはテレビの左または右の床面に設置します。

### リアスピーカーを横に設置した場合



### リアスピーカーを背後に設置した場合



### ご注意

センタースピーカーとリアスピーカーは、フロントスピーカーよりも離れた位置に置かないでください。

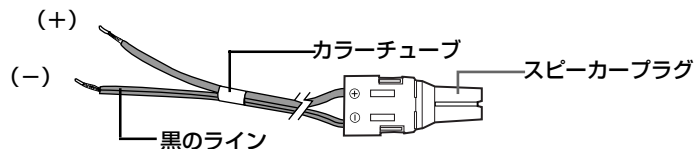


# スピーカーを接続する

## 必要な接続コード

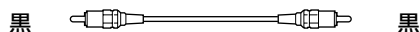
### スピーカーコード (付属)

フロント、リア、センタースピーカー用に各1本ずつ、計5本必要です。  
黒のラインが入っているコードがー極です。

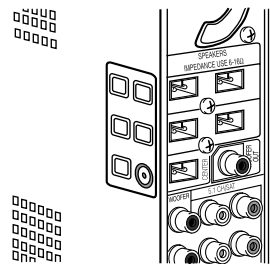


### モノラルオーディオ接続コード (付属)

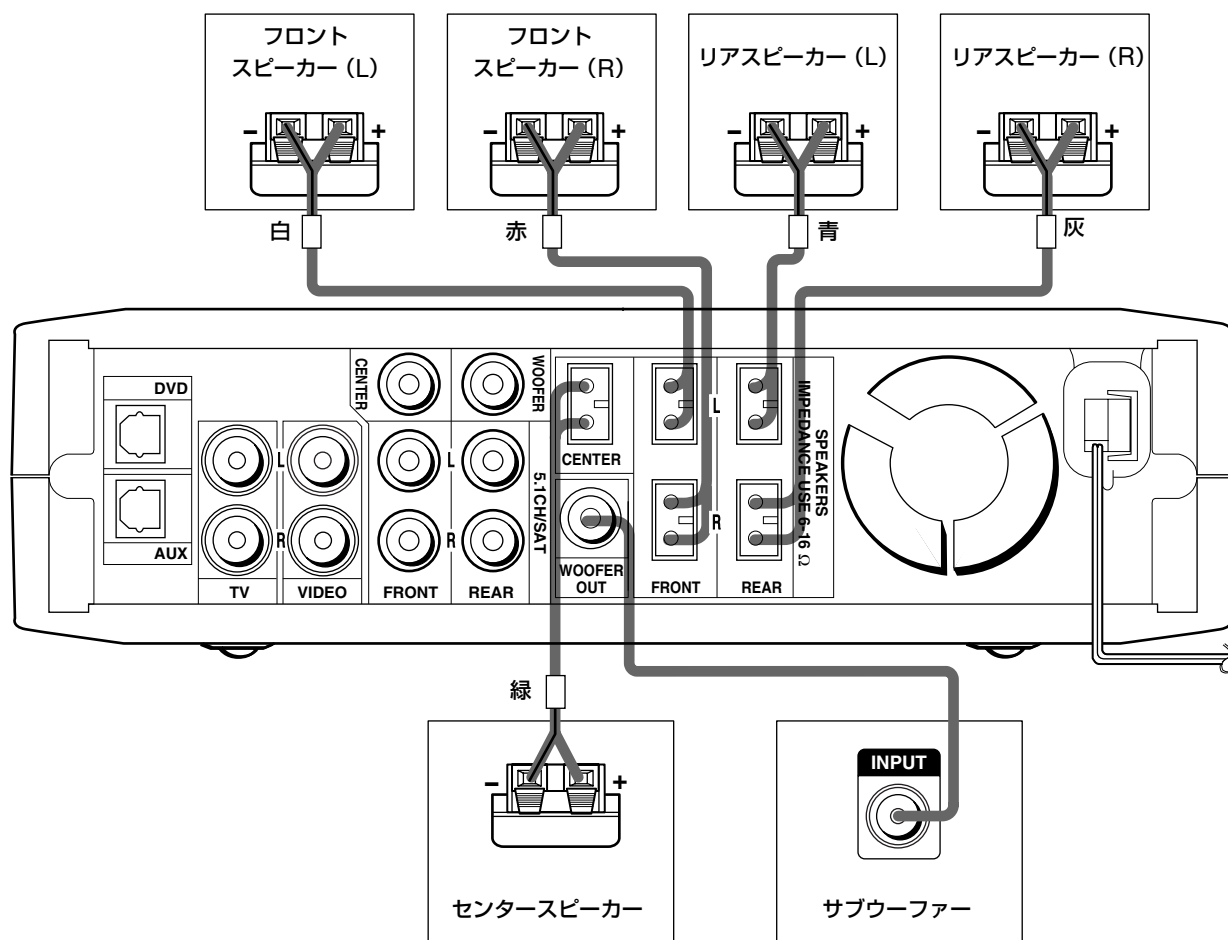
サブウーファー用に1本必要です。



💡 本機の上面に、端子の位置と色を示すシールが貼られています  
同じ色のスピーカープラグを端子に差し込んでください。



スピーカーの設置と接続をする



## スピーカーをつなぐ端子

つなぐもの	つなぐ端子
フロントスピーカー	SPEAKERS FRONT L (白) / R (赤) 端子
リアスピーカー	SPEAKERS REAR L (青) / R (灰) 端子
センタースピーカー	SPEAKERS CENTER (緑) 端子
サブウーファー	WOOFER OUT端子

### ご注意

付属のスピーカー以外のスピーカーをつなぐ場合は、インピーダンス6Ωまたはそれ以上のスピーカーをお使いください。

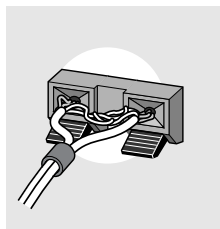


## スピーカーのショートを防止する

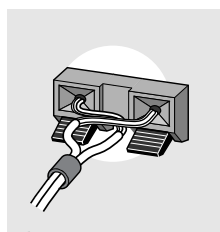
スピーカーをショートさせると本機にトラブルが生じます。ショートを防ぐために、スピーカーを接続するときは以下のことに十分注意してください。

他のコードの先端と接触しないように気をつけてください。

スピーカーコード接続の悪い例



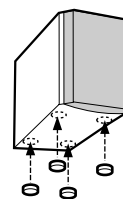
スピーカーコードの先端が他のコードと接触している。



スピーカーコードの先端が端子から大幅にはみ出し、他のコードと接触している。

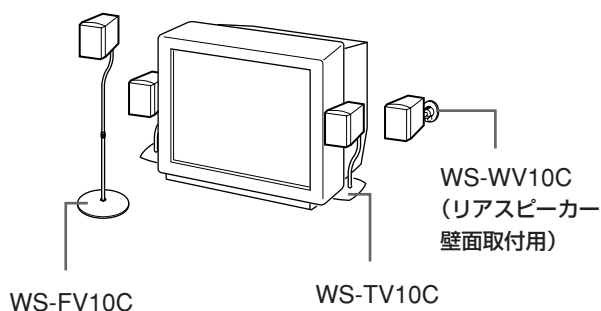
## スピーカーを安定させる

聞いているときにスピーカーが振動したり移動したりしないように、付属のスピーカーパッドを、サテライトスピーカーの底面の四隅に貼ってください。ただし、スピーカースタンド（別売り）を使う場合は必要ありません。



## スピーカースタンド（別売り）を使う

別売りのスピーカースタンド（WS-FV10C、WS-TV10C、WS-WV10C）を使うと、簡単に希望の場所にスピーカーを設置できます。





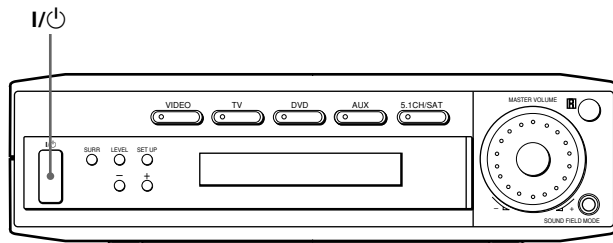
## 本機のメモリーを消去する

スピーカーの接続が終わったら電源を入れ、メモリーを消去します。初めて本機をご使用になるとき、メモリーをクリアしたいときは、次の操作をしてください。

電源コードを壁のコンセントにつなぐ前にスピーカーをつないでください（10ページ）。

### ご注意

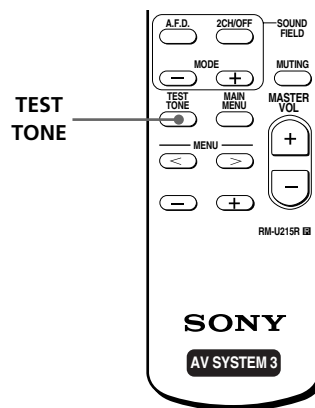
電源コードを約2週間抜いたままにすると、本機のメモリーはクリアされます。




- 1 電源コードをコンセントにつなぐ。
- 2 電源が切れていることを確認する。
- 3 INITIALと表示されるまで、I/Oを4秒間押し続ける。  
現在選択しているファンクションが表示されます。次の項目がリセットまたはクリアされます。
  - サウンドフィールドのパラメーターが初期化され、工場出荷時の状態になります。
  - SET UPボタンを使って調節した設定が、工場出荷時の状態になります。
  - プログラムソースに対するサウンドフィールドがクリアされます。

## スピーカーの接続を確認する

すべてのスピーカーが正しく接続されているかを確認するため、テストトーンを出します。

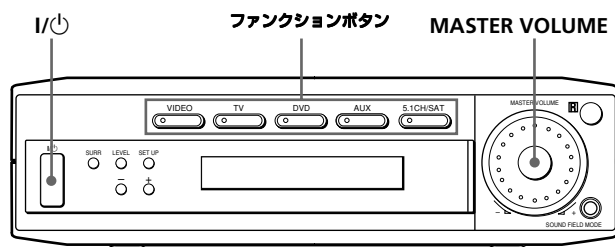


- 1 I/Oを押して、本機の電源を入れる。
- 2 本体のVOLUMEを上げる（10～20程度）。
- 3 サブウーファーの電源を入れる。
- 4 サブウーファーのLEVELを上げる（ 程度）
- 5 付属のリモコンのTEST TONEボタンを押す。  
各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえることを確認します。  
フロント（左）→ センター → フロント（右）→ リア（右）→ リア（左）→ サブウーファー  
  
テストトーンを出力中、何も聞こえなかったり、本機のディスプレイに表示されているスピーカー名と一致しないスピーカーからテストトーンが出たときは、スピーカーがショートしているか、誤配線の恐れがあります。このときはもう一度スピーカーコードの接続を確認してください。
- 6 付属のリモコンのTEST TONEボタンを押して、テストトーンを消す。



## 接続した機器の音を出してみる

すべての機器を接続し終えたら、次のようにして正しく接続できたか確認してください。



- 1 I/Oを押して、本機の電源を入れる。
- 2 ファンクションボタンを押して、接続した機器（DVD、VIDEO、TVなど）を選ぶ。
- 3 選んだ機器の電源を入れ、再生する。
- 4 MASTER VOLUMEつまみを回して、音量を調節する。

正しく再生されない場合は、「故障かな?と思ったら」(33ページ)をご覧ください。



# 各部の名称と基本操作

この章では各部の名称と基本機能、基本操作を説明します。

## 前面の各部の名称

### ① I/Oスイッチ

電源をオン／オフします。

### ② ファンクションボタン

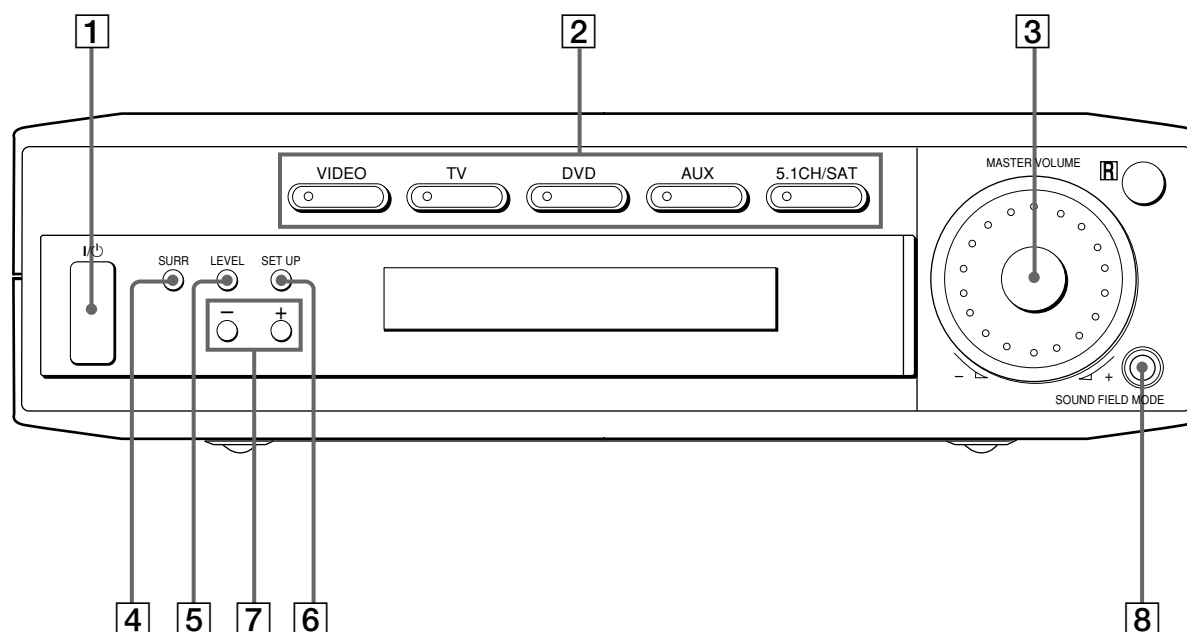
使用したい機器を選ぶときに押します。

見たい、聞きたいソース	押すボタン
ビデオデッキ	VIDEO
TV番組	TV
DVD	DVD
“プレイステーション 2”、他のオーディオ機器	AUX
マルチチャンネル出力を持った機器	5.1CH／SAT

見たい、聞きたいソースを選んだら、ソース側の機器の電源を入れ、再生してください。

- ビデオデッキかDVDプレーヤーを選んだときは、テレビの電源を入れてください。その後テレビのビデオ入力を選んでください。





### ③ MASTER VOLUMEつまみ

音量を調節します。選んだ機器の電源を入れてから行います。

### ④ SURRボタン

サウンドフィールドを調節するときに繰り返し押します (29ページ)。+/- ボタン (⑦) を使って、さまざまなサラウンドパラメーターが調節できます (エフェクトレベル、ウォールタイプなど)。

### ⑤ LEVELボタン

レベルを調節するときに繰り返し押します (30ページ)。+/- ボタン (⑦) を使って、さまざまなスピーカークのレベルパラメーターが調節できます (フロントバランス、リアバランスなど)。

### ⑥ SET UPボタン

SET UPモードに入るときに繰り返し押して以下の項目を選びます。+/- ボタン (⑦) を使って設定します。

設定する項目	設定できること
スピーカークの種類	スピーカークの種類を選びます (25ページ)。
スピーカークの設定	フロント、センター、リアスピーカークの大きさ、リアスピーカークの位置、サブウーファークの有無などを設定します (25～27ページ)。
スピーカークの距離	フロント、センター、リアスピーカークの距離を設定します (26ページ)。

### ⑦ +/- ボタン

スピーカークレベル、サラウンドのパラメーターなどを調節するときに押します。

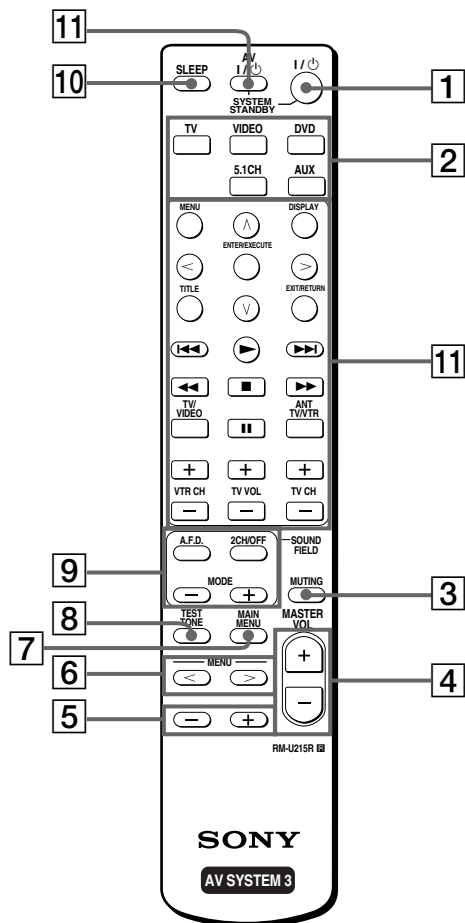
### ⑧ SOUND FIELD MODEボタン

繰り返し押して、希望するサウンドフィールドを選びます (21ページ)。



# リモコンの各部の名称

☀ リモコンを使って、ソニー製の他のAV機器の操作を行うことができます



## 1 I/Oスイッチ

電源をオン/オフします。

## 2 ファンクション/システムコントロールボタン

使用したい機器を選ぶときに押します。本体の入力を切り換えて、**11**のボタンで下記の機器を操作できるようにします。

見たい、聞きたいソース	<b>11</b> のキーで操作できる機器	押すボタン
ビデオデッキ	ビデオデッキ*	VIDEO
TV番組	TV	TV
DVD	DVDプレーヤーなど*	DVD
“プレイステーション 2”、他のオーディオ機器	DVDプレーヤーなど*	AUX
マルチチャンネル出力を持った機器		5.1CH

\* 設定については18ページをご覧ください。

見たい、聞きたいソースを選んだら、ソース側の機器の電源を入れ、再生してください。

- ビデオデッキかDVDプレーヤーを選んだときは、テレビの電源を入れてください。その後テレビのビデオ入力を選んでください。

## 3 MUTEボタン

音を瞬時に消したいときに押します。

## 4 MASTER VOLUME +/− ボタン

音量を調節します。選んだ機器の電源を入れてから行います。

## 5 +/− ボタン

スピーカーレベル、サラウンドのパラメーターなどを調節するときに押します。

## 6 MENU </> ボタン

スピーカーレベル、サラウンドのパラメーターなどを選ぶときに押します。

## 7 MAIN MENUボタン

SET UPメニュー、SURRメニュー、LEVELメニューを選ぶときに押します。

## 8 TEST TONEボタン

テストトーンを出すときに押します。

- 9** サラウンド効果を楽しむには以下のボタンを押します。詳しくは、「サラウンドを楽しむ」(20ページ)をご覧ください。

### SOUND FIELD A.F.D.ボタン

本機が、入力された音声信号の種類を自動検知し、必要なときは適正な変換をするよう設定するときに押します。

### SOUND FIELD 2CH/OFFボタン

フロント(右/左)スピーカーと、サブウーファーからのみ音を出すときに押します。

### SOUND FIELD MODE +/− ボタン

サウンドフィールドを選ぶときに繰り返し押します。詳しくは21ページの「サウンドフィールドを選ぶ」をご覧ください。

## 10 SLEEPボタン

スリープタイマーを使うときに押します。詳しくは19ページをご覧ください。

## 11 ソニー製AV機器操作用ボタン

詳しくは17ページをご覧ください。



# リモコンのボタン説明

ソニー製のAV機器を付属のリモコン（11のボタン）で操作するとき、この表をご覧ください。

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
◀◀/▶▶	ビデオ DVDプレーヤー CDプレーヤー LDプレーヤー	早送りまたは巻戻し（ディスクの始めまたは終わりに向かってサーチ）を行います。
⏮/⏭	DVDプレーヤー CDプレーヤー LDプレーヤー	トラックをスキップします。
⏸	ビデオ DVDプレーヤー CDプレーヤー LDプレーヤー	再生または録音を一時停止します。（録音一時停止の機器の録音を開始します。）
▶	ビデオ DVDプレーヤー CDプレーヤー LDプレーヤー	再生を開始します。
■	ビデオ DVDプレーヤー CDプレーヤー LDプレーヤー	再生を停止します。
AV I/⏻	テレビ ビデオ DVDプレーヤー LDプレーヤー	電源をオンまたはオフします。
ENTER/ EXECUTE	テレビ ビデオ DVDプレーヤー	設定を決定します。
ANT TV/ VTR	ビデオ	アンテナ端子からの出力信号を選択します（テレビ信号またはビデオプログラム）。
MENU	テレビ ビデオ DVDプレーヤー	メニュー画面を表示します。
TITLE	DVDプレーヤー	現在のDVDのタイトルを表示します。
EXIT/ RETURN	テレビ DVDプレーヤー	メニュー画面を終了したり、前の画面に戻ります。
DISPLAY	テレビ DVDプレーヤー LDプレーヤー	テレビ画面に表示される情報を選択します。

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
△	テレビ ビデオ DVDプレーヤー	VIDEO CONTROL、AUDIO CONTROL、SET UP、LANGUAGE、DEMO などのメニュー画面で、数値を大きくしたり、カーソルを上に移動したりします。
▽	テレビ ビデオ DVDプレーヤー	VIDEO CONTROL、AUDIO CONTROL、SET UP、LANGUAGE、DEMO などのメニュー画面で、数値を小さくしたり、カーソルを下に移動したりします。
>	テレビ ビデオ DVDプレーヤー	メニュー画面でカーソルを右に移動します。
<	テレビ ビデオ DVDプレーヤー	メニュー画面でカーソルを左に移動します。
VTR CH +/-	ビデオ	ビデオのチャンネルを切り換えます。
TV CH +/-	テレビ	テレビのチャンネルを切り換えます。
TV VOL +/-	テレビ	テレビの音量を調節します。

\* メニューコントロールキーで操作できないソニー製テレビもあります。



## リモコンのボタン説明

### ファンクションボタンの設定を変える

FUNCTION／SYSTEM CONTROLボタン（**[2]**のボタン）の設定がお手持ちのシステムと合っていない場合は、ボタンの設定を変えることができます。

それぞれのボタンは下記のように設定を変えることができます。

ボタン	設定可能な機器
VIDEO	ビデオデッキ（リモコンモードはVTR 1、VTR 2、VTR 3）
DVD	DVDプレーヤー、LDプレーヤー、CDプレーヤー
AUX	DVDプレーヤー、LDプレーヤー、CDプレーヤー

- 工場出荷時には、VIDEOボタンはVTR 3に、DVDボタンはDVDプレーヤーに設定されています。
- 工場出荷時には、AUXボタンには何も設定されていません。AUX入力端子に接続している機器に合わせて設定してください。
- ソニー製のビデオデッキは、VTR 1、2または3の設定で動作します。これらはそれぞれベータ、8 mm、VHSに対応しています。

VIDEOボタンの設定を変えるときに押すボタン

設定させたい機器	メニューコントロールボタン
VTR 1（ベータ）	△
VTR 2（8 mm）	ENTER／EXECUTE
VTR 3（VHS）	▽

DVD、AUXボタンの設定を変えるときに押すボタン

設定させたい機器	メニューコントロールボタン
DVD	EXIT／RETURN
LD	DISPLAY
CD	>

例えば、ソニー製のLDプレーヤーをDVD端子につないでいる場合、DVDボタンでLDプレーヤーを操作できるように設定することができます。

**1 設定を変更したいFUNCTION／SYSTEM CONTROLボタンを押し続ける。**  
（例えば、DVDボタン）

**2 手順1のボタンを押し続けたまま、FUNCTION／SYSTEM CONTROLボタンに設定させたい機器のボタンを押す。**  
（例えば、LDプレーヤーならDISPLAY）  
上記の例の場合、DVDボタンを押したままDISPLAYボタンを押すことになります。

これで、DVDボタンでソニー製のLDプレーヤーを操作できるようになります。

**工場出荷時の設定に戻すときは**

上記の手順に従って、設定しなおしてください。

**すべてのFUNCTION／SYSTEM CONTROLボタンを工場出荷時の設定に戻すときは**

I/Iボタン、AV I/Iボタン、MASTER VOL -ボタンを同時に押します。

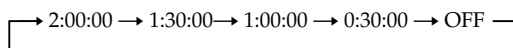


# スリープタイマーを使う

指定した時間が経つと、本機の電源を自動的にオフにすることができます。

電源が入っているときに、リモコンのSLEEPボタン (10のボタン) を押す。

SLEEPボタンを押すたびに、時間表示が次のように切り換わります。



時間を指定した後、表示窓が暗くなります。

## 🔦 時間を細かく設定するには

はじめにリモコンのSLEEPボタンを押し、次に本機の＋／－ボタンで時間を指定します。1分間隔で時間を変更できます。最大5時間まで設定できます。

## 🔦 本機の電源がオフする前に残り時間を確認するには

リモコンのSLEEPボタンを押します。表示窓に残り時間が表示されます。



# サラウンドを楽しむ

この章ではサラウンドを楽しむための設定のしかたを説明します。

ドルビーデジタルやDTSなどで記録されているソフトを再生すると、マルチチャンネルのサラウンド効果が楽しめます。

本機にプログラムされているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。また、サラウンドパラメーターを変えることによって、好みのサウンドフィールドを作ることができます。本機はさまざまなサウンドフィールドを内蔵しています。

CINEMAサウンドフィールドは、ドルビーデジタルなどのマルチチャンネルのサラウンド効果やドルビープロロジックが記録されている映画などのソフト（DVDやLDなど）を再生するときに適しています。単純に再生だけでなく、映画館特有の反射や残響を付加したモードがあります。

VIRTUALサウンドフィールドは、ソニーデジタルシネマサウンドの技術が集約されています。これらのサウンドフィールドは、実際に配置されたスピーカーから出る音で複数の仮想スピーカーを作成するような効果があります。

MUSICなどのサウンドフィールドは、オーディオソース（CDなど）やテレビ放送に向いています。このモードでは迫力のあるサウンドフィールドを再現するために、ソースの信号に残響を加えています。あたかも、コンサートホールやスタジアムなどにいるような臨場感が味わえます。このサウンドフィールドは2チャンネルのソースやスポーツ番組、コンサート中継などのステレオ放送に適しています。

サウンドフィールドについて詳しくは21～22ページをご覧ください。

## A.F.D.

これは「Auto Format Decoding」の略で、どんな残響なども加えられていない、記録された音そのままのサウンドフィールドを再現します。

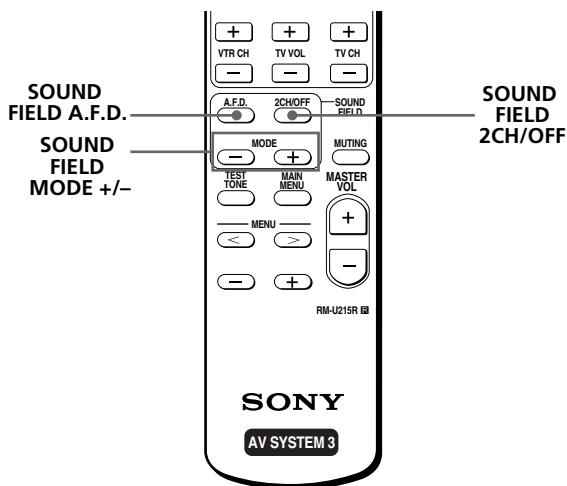
## ご注意

より臨場感豊かなサラウンド効果を楽しむ場合は、スピーカーの配置を設定します。詳しくは25～26ページをご覧ください。なり、スピーカーのパラメーターを設定してください。



# サウンドフィールドを選ぶ

本機にあらかじめプログラムされているサウンドフィールドを使って、簡単にサラウンド効果を楽しむことができます。



- 1 付属のリモコンのSOUND FIELD MODE +/- ボタンを押す。

現在のサウンドフィールドが表示窓に表示されます。

- 2 SOUND FIELD MODE +/- ボタンを押して、希望するサウンドフィールドを選ぶ。

サウンドフィールドについて詳しくは22ページをご覧ください。

## 記録されたままの音を再現するには

リモコンのSOUND FIELD A.F.D.ボタンを押します。入力された音声信号を自動的に識別し（ドルビーデジタル、DTS、標準的な2チャンネルステレオなど）、必要であれば適切な処理をします。このモードは何の効果も加えずに、録音された、または記録されたままの音を再現します。リモコンのSOUND FIELD MODE +/- ボタンで選ぶこともできます。

## 左右のフロントスピーカーと、サブウーファーからのみ音を出すには


リモコンのSOUND FIELD 2CH/OFFボタンを押します。

左右のフロントスピーカーと、サブウーファーのみから音を出します。標準的な2チャンネル（ステレオ）ソースは、サウンドフィールドの処理を飛ばします。マルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。リモコンのSOUND FIELD MODE +/- ボタンで選ぶこともできます。

## 各プログラムソースで最後に選んだサウンドフィールドが本機にメモリーされています（サウンドフィールドリンク）

プログラムソースを選ぶと、前回そのプログラムソースで選んだサウンドフィールドが自動的に設定されます。例えば、サウンドフィールドのHALLを選んで、CD（AUX）を聞き、いったんプログラムソースを変えて、再びCD（AUX）に戻るとHALLのサウンドフィールドで聞くことができます。

## ドルビーデジタルで記録されたソフトは、パッケージを見ればわかります

ドルビーデジタルで記録されているソフトには  マークが付いています。

## DTSで記録されたソフトは、パッケージを見ればわかります

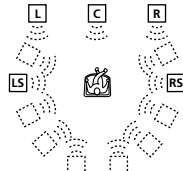
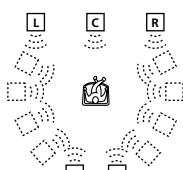
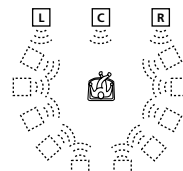
DTSで記録されているソフトには  マークが付いています。

## 本体で操作するときは

SOUND FIELD MODEボタンを繰り返し押して希望するサウンドフィールドを選びます。



## サウンドフィールドを選ぶ

サウンドフィールド	効果	ご注意
NORM.SURR. (NORMAL SURROUND)	マルチチャンネルのサラウンド音声信号が、ソフトに録音された通りに再生されます。 2チャンネルの音声信号のソフトは、サラウンド効果を再現するためにドルビープロロジック処理されます。	
CINEMA A (CINEMA STUDIO A)	ソニーピクチャーズエンターテインメントの中で最も伝統のある「エディティングシアター」の音響特性を再現します。	標準的なモードです。どんな映画にも適しています。
CINEMA B (CINEMA STUDIO B)	ハリウッドの中でも最先端クラスの音響設備を備えたソニーピクチャーズエンターテインメントのミキシングスタジオの音響特性を再現します。	このモードはサウンド効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。
CINEMA C (CINEMA STUDIO C)	ソニーピクチャーズエンターテインメントの映画のBGMなどを収録するスタジオの音響特性を再現します。	このモードはミュージカルやオーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。
V.M.DIMENS.* (VIRTUAL MULTI DIMENSION)	3D立体音像処理により、実在する1組のリアスピーカーを使って、より高い位置に仮想リアスピーカーを再現します。このモードではリスニングポジションから約30°の高さに4組の仮想スピーカーを再現します。	<div> <div>SIDE**</div>  </div> <div> <div>BEHIND**</div>  </div> <div>**25ページ参照</div>
V.SEMI M.D.* (VIRTUAL SEMI-MULTI DIMENSION)	3D立体音像処理により、実在するリアスピーカーを使わずにフロントスピーカーの音で仮想リアスピーカーを再現します。このモードではリスニングポジションから約30°の高さに5組の仮想スピーカーを再現します。	
HALL	長方形のコンサートホールの音響を再現します。	アコースティックサウンドに適しています。
JAZZ (JAZZ CLUB)	ジャズクラブの音響を再現します。	
LIVE (LIVE HOUSE)	300席あるライブハウスの音響を再現します。	ロックやポップミュージックに適しています。
GAME	ビデオゲームのソフトで、迫力のある音声を得られます。	ステレオで音声を再生できるゲームソフトを使うときは、ゲーム機側をステレオモードにしてください。

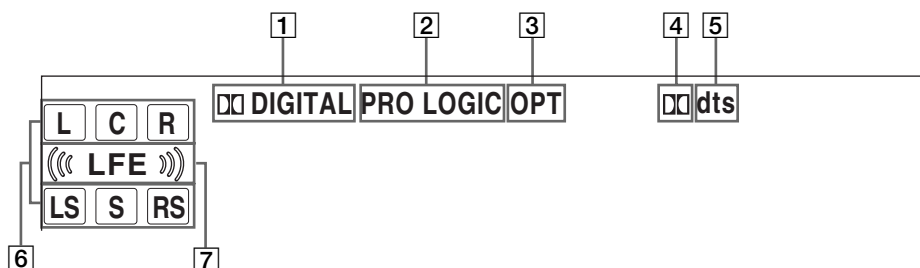
\* 「VIRTUAL」サウンドフィールド：実在しない仮想スピーカーによるサウンドフィールドです。

## ご注意

- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、エフェクトの効果によりノイズが目立つことがあります。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、リアスピーカーからの音声は直接は聞こえません。



# マルチチャンネルサラウンド表示の見かた



## 1 DIGITAL

ドルビーデジタル記録された信号を再生し、2 CHANNEL以外のサウンドフィールドが選ばれているときに点灯します。\*

\* 2チャンネルまたは2チャンネル・プロロジック記録されたフォーマットでは点灯しません。

## 2 PRO LOGIC

センターやサラウンドチャンネルの信号を出力するために、2チャンネル信号をプロロジック処理しているときに点灯します。\*\*

\*\* センターとリアスピーカーが「NO」と設定されているとき、A.F.D.またはNORMAL SURROUNDのサウンドフィールドが選ばれているときは点灯しません。

## 3 OPT

デジタル信号がOPT端子から入力されているときに点灯します。

## 4

OPT端子からドルビーデジタル信号が入力されているときに点灯します。

## 5 dts

OPT端子からDTS信号が入力されているときに点灯します。

## 6 再生チャンネル表示

現在本機が出力しているチャンネルを表示します。文字(L、C、R…)はソース音源を示します。文字の周りの枠は、スピーカーの設定に基づいて本機がソース音源をどのようにダウンミックス処理したかにより、表示がわかります。HALL、JAZZ CLUBなどの音楽用のモードでは、さらにこの信号をもとにして残響成分を付加しています。

L: フロント左 R: フロント右  
C: センター (モノラル) LS: サラウンド左  
RS: サラウンド右

S: サラウンド (モノラル/プロロジック処理されたリア成分)

文字の周りの枠が点灯し、再生に使われているスピーカーを表示します。

例:

記録形式 (フロント/リア): 3/2

再生チャンネル: リアスピーカーなし

サウンドフィールド: A.F.D.

L C R

LS RS

## 7 ((LFE))

再生中のディスクにLFE (低音増強) のチャンネルが存在しているとき、または実際にLFE信号の音が再生されているときに、「((LFE))」の文字が点灯します。



# すすんだ操作

この章ではより豊かな臨場感をお楽しみいただくために、スピーカーの設定のしかた、レベルの調節のしかた、サウンドフィールドの加工のしかたについて説明します。





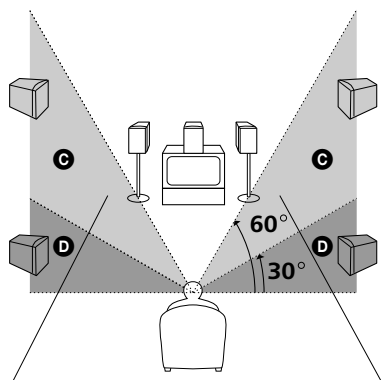


## スピーカーの設定をする

### ■ リアスピーカーの高さ (HGT.) \*

このパラメーターは、「VIRTUAL」サウンドフィールドでデジタルシネマサウンドを楽しむために、リアスピーカーの高さを設定するものです。下の図を参照してください。

- **LOW**  
リアスピーカーを**D**の範囲に設置した場合。
- **HIGH**  
リアスピーカーを**C**の範囲に設置した場合。



\* これらのパラメーターは「リアスピーカーの大きさ (SIZE)」が「NO」に設定されていると、設定項目が表示されません。

### 🔦 リアスピーカーの位置について (SIDE、BEHIND)

「VIRTUAL」サウンドフィールド専用の設定です。

通常のサウンドフィールドでは、スピーカーの配置は比較的重要ではありません。「VIRTUAL」サウンドフィールドでは、基本的にはスピーカーは後方配置を標準として設計していますが、リアスピーカーの角度が相当開いていても比較的效果が薄れないようになっています。しかしスピーカーをリスニングポジションの真横に置くと、リアスピーカーを「SIDE」に設定しない場合には、効果がはっきりしなくなります。

ただし、リスニング環境には壁の反射などさまざまな影響があるため、スピーカーが高い位置にあるときは、リアスピーカーがほぼ真横に有っても「BEHIND」に設定したほうが良い場合があります。したがって、「リアスピーカーの位置」の記載には反しますが、実際に設定してみて、より広がり感が豊かで、サラウンド空間とフロントとのつながりの良いほうを選択するのが良いと思います。迷ったら「BEHIND」に設定し、距離やレベルを調節してより良い広がり感をみつけてください。

### ■ フロントスピーカーまでの距離 (FRONT DIST.)

リスニングポジションからフロントスピーカー (左、右) までの距離を設定します (9ページ **A**)。お買い上げ時は 5.0 m に設定されています。

- フロントスピーカーの距離は 1~12 m の範囲で、0.1 m ごとに設定できます。
- 両方のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

### ■ センタースピーカーまでの距離 (CENT DIST.)

リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離を設定します。お買い上げ時は 5.0 m に設定されています。

- センタースピーカーの距離はフロントスピーカーと同じ距離 (9ページ **A**) からリスニングポジションに 1.5 m 近い距離 (9ページ **B**) の範囲で、0.1 m ごとに設定できます。
- センタースピーカーをフロントスピーカーより遠くに設置しないでください。

### ■ リアスピーカーまでの距離 (REAR DIST.)

リスニングポジションからリアスピーカー (左、右) までの距離を設定します。お買い上げ時は 3.5 m に設定されています。

- リアスピーカーの距離はフロントスピーカーと同じ距離 (9ページ **A**) からリスニングポジションに 4.5 m 近い距離 (9ページ **C**) の範囲で、0.1 m ごとに設定できます。
- リアスピーカーをフロントスピーカーより遠い距離に設置しないでください。
- 両方のリアスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

### 🔦 各スピーカーまでの距離の設定について

本機ではスピーカーの位置を距離で入力します。ただし、センタースピーカーはフロントスピーカーより遠くに設定できません。また、フロントスピーカーより 1.5 m 以上手前にも設定できません。サラウンド用のリアスピーカーもフロントスピーカーより遠くに設定できません。また、4.5 m 以上手前にも設定できません。これは、スピーカーの配置が適切でないと、サラウンドの効果を楽しむことができないからです。

次に使いこなしのヒントとして、スピーカーの配置を実際の距離より近く設定すると、音が出るタイミングが遅くなります。つまり、スピーカーが遠くにあるように感じられます。

例えば、センタースピーカーを実際の距離より 1~2 m 短く設定すると、画面の中にいるような感じがすることがあります。リアスピーカーの距離が近いために、サラウンド感が不足するときは、リアスピーカーの距離を実際の距離より短く設定すると、音場感を大きくすることができます。

実際に聞きながら設定を変えてみると、サラウンド感が良くなることがありますので、お試しください。



## 付属のスピーカー以外のスピーカーを使用する場合

付属のスピーカーをすべて使用する場合の6項目に加えて、次の4項目を設定します。「スピーカーの種類」は、「NORM. SP.」を選びます。

- フロントスピーカーの大きさ
- センタースピーカーの大きさ
- リアスピーカーの大きさ
- サブウーファーの選択

お買い上げ時、各項目は下線の値に設定されています。

### ■ フロントスピーカーの大きさ (LARGE, SMALL)

- LARGE  
低域を十分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合。
- SMALL  
音が歪んだり、マルチチャンネルのサラウンド効果を使ってもサラウンド効果が不十分な場合。低域変換回路が働き、サブウーファーからフロントスピーカーの低域成分が再生されます。  
フロントスピーカーを「SMALL」に設定した場合、センター、リアスピーカーは、「NO」に設定されていない限り、自動的に「SMALL」に設定されます。

### ■ センタースピーカーの大きさ (LARGE, SMALL)

- LARGE  
低域を十分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合。フロントスピーカーを「SMALL」に設定している場合、センタースピーカーは「LARGE」に設定できません。
- SMALL  
音が歪んだり、マルチチャンネルのサラウンド効果を使ってもサラウンド効果が不十分な場合。低域変換回路が働き、フロントスピーカー（「LARGE」に設定されている場合）またはサブウーファーからセンタースピーカーの低域成分が再生されます。<sup>\*1</sup>
- NO  
センタースピーカーをつながない場合。センタースピーカーの音はフロントスピーカーから出力されます。<sup>\*2</sup>

### ■ リアスピーカーの大きさ (LARGE, SMALL)

- LARGE  
低域を十分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合。フロントスピーカーを「SMALL」に設定している場合、リアスピーカーは「LARGE」に設定できません。
- SMALL  
音が歪んだり、マルチチャンネルのサラウンド効果を使ってもサラウンド効果が不十分な場合。低域変換回路が働き、サブウーファーまたは「LARGE」と設定した他のスピーカーからリアスピーカーの低域成分が再生されます。
- NO  
リアスピーカーをつながない場合。<sup>\*3</sup>

☀ 上記の\*1～\*3 は従来のドルビープロロジックモードでは以下に相当します

- \*1 NORMAL
- \*2 PHANTOM
- \*3 3 STEREO

### ☀ SPEAKERの大きさについて (LARGE, SMALL)

各スピーカーの「LARGE」、「SMALL」とは、内部的には「そのスピーカーの低音をカットするかしないか」を決めることです。カットされた低音は、「LARGE」と設定した他のスピーカーまたはサブウーファーの低域に回されます。  
しかし、低音にも指向性があるので、できれば低域はカットしたくないものです。したがって、小型のスピーカーでも、そのスピーカーに低音を再生させたい場合は「LARGE」に設定します。一方、大型のスピーカーを使っている場合、低域をカットしたい場合は、「SMALL」に設定してください。

### ■ サブウーファーの選択 (S. W.)

- YES  
サブウーファーをつないだ場合。
- NO  
サブウーファーをつながない場合。低域変換機能が働いて、LFE（低音増強）信号が他のスピーカーから再生されます。

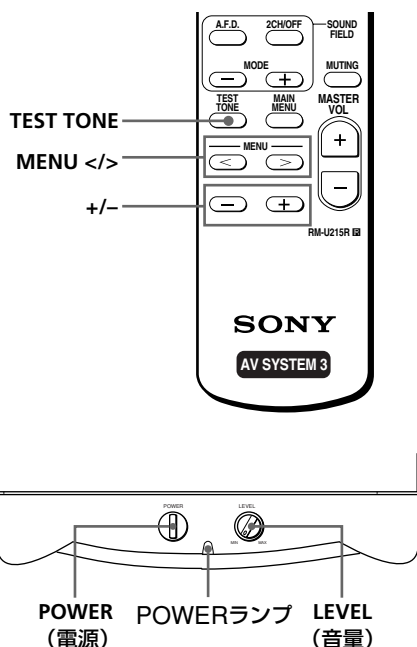



# 各スピーカーのレベルを調節する

リモコンを使ってリスニングポジションから各スピーカーの音量を調節します。


## ご注意

スピーカーの音量を調節しやすくするため、本機は中心周波数 800 Hzのテストトーンを採用しています。




- 1 I/⏻を押して、本機の電源を入れる。
- 2 本体のVOLUMEを上げる（10～20程度）。
- 3 サブウーファースの電源を入れる。
- 4 サブウーファースのLEVELを上げる（ 程度）。
- 5 付属のリモコンのTEST TONEボタンを押す。  
各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。  
フロント（左）→ センター → フロント（右）→  
リア（右）→ リア（左）→ サブウーファー

- 6 すべてのスピーカーのテストトーンが同じ大きさに聞こえるように、リスニングポジションからリモコンを使って各スピーカーの音量を調節する。

- フロントスピーカーの左右のバランスを調節する（ BAL.）

MENU</>を押してフロントバランスパラメーターを選びます。リモコンの+/-ボタンで音量を調節します。

- リアスピーカーの左右のバランスを調節する（ BAL.）

MENU</>を押してリアバランスパラメーターを選びます。リモコンの+/-ボタンで音量を調節します。

- リアスピーカーの音量を調節する（REAR）  
MENU</>を押してリアスピーカーのパラメーターを選びます。リモコンの+/-ボタンで音量を調節します。
- センタースピーカーの音量を調節する（CTR）  
MENU</>を押してセンタースピーカーのパラメーターを選びます。リモコンの+/-ボタンで音量を調節します。

## ご注意

サブウーファースの音量はテストトーンではなく、CDやDVDなどを再生して調節します。詳しくは29ページをご覧ください。

- 7 付属のリモコンのTEST TONEボタンを押して、テストトーンを消す。

## 💡 全体の音量を調節するには

本機のMASTER VOLUMEつまみ、またはリモコンのMASTER VOL +/-で調節します。

## ご注意

- 5.1CH/SATを選んでいるときは、テストトーンは出ません。
- 調節しているあいだ、フロントバランス、リアバランス、センタースピーカーレベル、リアレベルは表示窓に表示されます。
- 本機のLEVELメニューでも調節できますが（テストトーンが出ているあいだ、本機は自動的にLEVELメニューになります）、リモコンで実際にリスニングポジションから調節することをお勧めします。



続けて、サブウーファースの音量を調節します。テストトーンではなく、CDやDVDなどを再生して調節します。

## 8 CDやDVDなどを再生する。

## 9 サブウーファースのLEVELつまみを回して音量を調節する。

リスニングポジションから調節する場合は、リモコンのMENU</>を押して「S. W.」を選び、リモコンの+/- ボタンで音量を調節します。

### ご注意

よりよい音質をお楽しみいただくために、サブウーファースの音量を上げすぎないでください。

### 🔊 それぞれのスピーカーのレベルについて

各スピーカーの音量は、テストトーン出力時だけではなく、CDやDVDの再生中でも調節することができます。テストトーンを使ってすべてのスピーカーの音量を合わせ、質の高いサラウンドサウンドの基本をつくっても、実際にソフトを再生しながら、さらに調整したほうがよい場合があります。これはほとんどのソフトでは、センターとリアのチャンネルがフロントチャンネルよりもわずかに低いレベルで録音されているためです。

実際にマルチチャンネルで録音されたソフトを再生したとき、センタースピーカーとリアスピーカーのレベルを上げてみると、フロントスピーカーとセンタースピーカーからのサウンドがよりよくブレンドし、フロントスピーカーとリアスピーカーからのサウンドがよりなめらかにつながることに気づくでしょう。センタースピーカーのレベルを約1 dB、リアスピーカーのレベルを約1~2 dB上げるのが良いようです。

従って、実際にソフトを再生しながら、より広がり感やバランスがよくなるように調節するとよいでしょう。ほんの1 dBで驚くほど広がり感がかわることもあるのです。

# サウンドフィールドを加工する

サラウンドパラメーターを調節することにより、リスニング環境に合うようにサウンドフィールドを加工することができます。

1度調節したサウンドフィールドは登録され、またいつでも変更ができます。ただし電源プラグを2週間以上コンセントから抜いたままにしておくと、内容は消去されます。

サウンドフィールドによって調節できるパラメーターは異なります。詳しくは31ページの表をご覧ください。

## マルチチャンネルサラウンド効果を利用するには

サウンドフィールドを加工する前に、お手持ちのスピーカーを配置し、「スピーカーを設定する」(25ページ)、「各スピーカーのレベルを調節する」(28ページ)をご覧ください。

## サラウンドパラメーターを調節する

現在選ばれているサウンドフィールドのパラメーターをSURRメニューで変更することができます。変更されたパラメーターは各サウンドフィールドごとに登録されます。

- 1 マルチチャンネルのサラウンド効果が記録されているソースを再生する。
- 2 SURRボタンを繰り返し押して、調節したいパラメーターを選ぶ。
- 3 +/- ボタンを押して、設定を選ぶ。  
選んだ設定は自動的に登録されます。

### エフェクトレベル (EFFECT)

初期設定：(サウンドフィールドによる)

値を上げるほど、サラウンド効果は大きくなります。







## 加工したサウンドフィールドを工場出荷時の設定に戻す

- 1 電源が入っている場合は、I/Oを押して電源を切る。
- 2 SOUND FIELD MODEボタンを押しながらI/Oを押す。  
表示窓に「SURR. CLR.」が表示され、すべてのサウンドフィールドが初期値に戻ります。

## 調節できるパラメーター

サウンドフィールド	SURRパラメーター*			LEVELパラメーター**				
	EFFECT LEVEL	WALL TYPE	REVERB TIME	FRONT BAL.	REAR BAL.	REAR LEVEL	CENTER LEVEL	SUB WOOFER LEVEL
2CH				●				●
A.F.D.				●	●	●	●	●
NORMAL SURROUND				●	●	●	●	●
CINEMA STUDIO A	●			●	●	●	●	●
CINEMA STUDIO B	●			●	●	●	●	●
CINEMA STUDIO C	●			●	●	●	●	●
V. MULTI DIMENSION				●	●	●	●	●
V. SEMI-M. DIMENSION				●			●	●
HALL	●	●	●	●	●	●	●	●
JAZZ CLUB	●	●	●	●	●	●	●	●
LIVE HOUSE	●	●	●	●	●	●	●	●
GAME	●	●	●	●	●	●	●	●

\* サウンドフィールドごとに設定できます。

\*\*各サウンドフィールドで共通です。

### ご注意

ファンクションが5.1CH/SATのとき、サウンドフィールドは使えません。レベルパラメーターのみ上記とは別の設定ができます。



## 使用上のご注意

### 設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキから近い所。  
(テレビやビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている場所に、本体およびスピーカーなどを置くときは、変色、染みなどが残ることがあります。

### 使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。

特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。

また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しの良い所でお使いください。

### ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



### 本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。



# 故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。また、「スピーカーの接続を確認する」(12ページ)をご覧ください。もう1度接続を確認してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーご相談窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

## ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネル音声は再生されない

- ➔ 再生しているDVDディスクなどがドルビーデジタルやDTSで記録されているか確認する。
- ➔ DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子につないでいるときは、つないだ機器のオーディオ設定(音声デジタル出力の設定)を確認する(7ページ)。
- ➔ 再生している音声トラックが目的のものになっているか、DVDプレーヤーで確認する(DVDメニューの音声)。

## 音が出ない、ほとんど聞こえない

- ➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- ➔ 正しい機器が選ばれているか確認する。
- ➔ 「MUTING」が表示されているときは、リモコンのMUTINGボタンを押す。
- ➔ 保護回路が働いている。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう1度電源を入れる。

## 左右の音のバランスが悪い、または逆転している

- ➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- ➔ LEVELメニューにあるフロントバランスパラメーターを調節する。

## ハム音またはノイズがひどい

- ➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- ➔ 接続コードがトランスやモーターから離れているか確認する。
- ➔ テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。
- ➔ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。

## センタースピーカーの音が聞こえない

- ➔ 付属のサテライトスピーカーをお使いの場合、SET UPでMICRO SP.に設定されているか確認する(25ページ)。
- ➔ DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子につないでいるときは、つないだ機器のオーディオ設定(音声デジタル出力の設定)を確認する(7ページ)。
- ➔ サウンドフィールドがオンになっているか確認する(SOUND FIELD MODEボタンを押す)。
- ➔ CINEMAまたはVIRTUALが付くサウンドフィールドを選ぶ(21~22ページ)。
- ➔ スピーカーの音量を調節する(28ページ)。

## リアスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない

- ➔ 付属のサテライトスピーカーをお使いの場合、SET UPでMICRO SP.に設定されているか確認する(25ページ)。
- ➔ DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子につないでいるときは、つないだ機器のオーディオ設定(音声デジタル出力の設定)を確認する(7ページ)。
- ➔ サウンドフィールドがオンになっているか確認する(SOUND FIELD MODEボタンを押す)。
- ➔ CINEMAまたはVIRTUALが付くサウンドフィールドを選ぶ(21~22ページ)。
- ➔ スピーカーの音量を調節する(28ページ)。


## サブウーファーの音が聞こえない

- ➔ 付属のサテライトスピーカーをお使いの場合、SET UPでMICRO SP.に設定されているか確認する(25ページ)。
- ➔ 他のスピーカーをお使いの場合、サブウーファーがYESに設定されているか確認する(27ページ)。
- ➔ 本体とサブウーファーが正しく接続されているか確認する(10ページ)。


## サウンド効果が得られない

- ➔ サウンドフィールドがオンになっているか確認する(SOUND FIELD MODEボタンを押す)。

## リモコンで操作できない

- ➔ 本機のリモコン受光部に向けて操作する。
- ➔ リモコンと本機の間に障害物を取り除く。
- ➔ リモコンの乾電池を交換する。
- ➔ リモコンで正しいファンクションを選んだか確認する。
- ➔ リモコンがテレビのみを操作するよう設定されている場合、テレビ以外の機器を選択してから本機や他の機器を操作する。

## 「UNLOCK」が表示される

 ファンクションにDVDやAUXを選んだとき、デジタル入力端子に何も接続されていないか、デジタル信号が入力されていない場合は「UNLOCK」の表示が出ます。

## 本機のメモリーをクリアするための参照ページ

消去するメモリー	参照ページ
全てのメモリー	12ページ
加工したサウンドフィールド	31ページ



# 保証書とアフターサービス

## 保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

## アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな?と思ったら」を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-K215R/HT-K215M
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：



# 主な仕様

## アンプ部

### TA-VE215R/VE215M

実用最大出力

ステレオモード :  
(6、1kHz、JEITA)  
35 W + 35 W  
サラウンドモード :  
(6、1kHz、JEITA)  
フロント部 :  
35 W + 35 W  
センター部 :  
35 W  
リア部 :  
35 W + 35 W

周波数特性

DVD、TV、VIDEO、AUX :  
10 Hz ~ 20 kHz  
+ 0.5 / - 2 dB (サウンド  
フィールドオフ時)

入力(アナログ)

5.1CH / SAT、TV、VIDEO  
入力感度 : 250 mV  
入力インピーダンス :  
50 k  
S / N比<sup>a)</sup> : 96 dB  
(A、250 mV<sup>b)</sup>)

a) INPUT SHORT、5.1CH / SAT  
b) Weight network、input level

入力(デジタル)

DVD、AUX (OPTICAL) :  
入力感度 : -  
入力インピーダンス : -  
S / N比 : 100 dB  
(A、20 kHz LPF)

出力

SUB WOOFER :  
出力感度 : 2 V  
出力インピーダンス :  
1 k

電源 AC 100 V、  
50 / 60 Hz

消費電力 100 W

最大外形寸法 215 x 60 x 297 mm  
(幅 / 高さ / 奥行き)

質量 約 4.2 kg

## スピーカー部

### SS-MS215R

(HT-K215R用サテライトスピーカー)

形式 : フルレンジ、バスレフ型、防磁型

使用スピーカー :  
5 cm、コーン型

定格インピーダンス :  
6

最大入力 (JEITA) :  
60 W

出力音圧レベル :  
84 dB (1 W、1 m)

実効周波数帯域 :  
150 Hz ~ 20,000 Hz

最大外形寸法 :  
76 x 100 x 86 mm  
(幅 / 高さ / 奥行き)

質量 : 425 g

### SS-MS215M

(HT-K215M用サテライトスピーカー)

形式 : フルレンジ、密閉型、防磁型

使用スピーカー :  
8 cm、コーン型

定格インピーダンス :  
6

最大入力 (JEITA) :  
60 W

出力音圧レベル :  
84 dB (1 W、1 m)

実効周波数帯域 :  
150 Hz ~ 20,000 Hz

最大外形寸法 :  
105 x 153 x 128 mm  
(幅 / 高さ / 奥行き)

質量 : 1 kg

### SS-CN215M

(HT-K215M用センタースピーカー)

形式 : フルレンジ、密閉型、防磁型

使用スピーカー :  
5.7 cm、コーン型 (2個)

定格インピーダンス :  
6

最大入力 (JEITA) :  
60 W

出力音圧レベル :  
84 dB (1 W、1 m)

実効周波数帯域 :  
150 Hz ~ 20,000 Hz

最大外形寸法 :  
200 x 79 x 131 mm  
(幅 / 高さ / 奥行き)

質量 : 800 g

### SA-WMS215R/WMS215M

(サブウーファー)

形式 : アコースティック  
ローデッドバスレフ型、防磁型

使用スピーカー :  
16 cm、コーン型

実用最大出力 :  
50 W (JEITA、8 負荷)

周波数帯域 :  
32 Hz ~ 250 Hz

カットオフ周波数 :  
250 Hz

入力 LINE IN (ピンジャック)

電源 AC 100 V、50 / 60Hz

消費電力 40 W

最大外形寸法  
240 x 282 x 362 mm  
(幅 / 高さ / 奥行き)

質量 約 8 kg

付属品 (4ページをご覧ください)

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

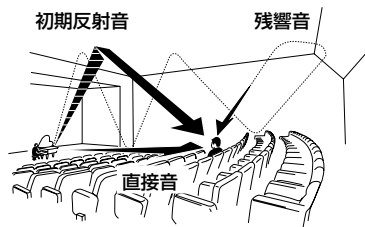
その他



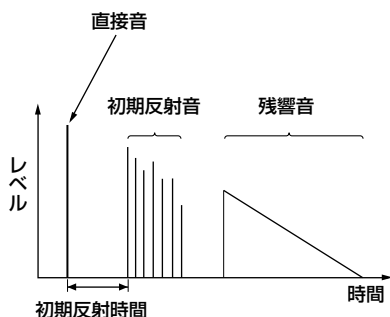
## サラウンドサウンド

直接音、初期反射音および残響音の3要素で構成されているサラウンドです。音を聞いている場所の音響効果は、この3つの音の要素の聞こえかたによります。これらの音の要素で、コンサートホールの広さや環境を実際に感じることができます。

### ・音の種別



### ・リアスピーカーからのサウンドの遷移



## ドルビープロロジックサラウンド

ドルビーサラウンドの再生システムの1つで、2チャンネルに記録されている音を4チャンネルにして再生します。よって従来のドルビーサラウンドより音の動きや定位が自然に再生されます。この効果を充分に楽しむためには、フロントスピーカー1組の他に、センタースピーカーが1本と、リアスピーカーが1組必要です。リアスピーカーからの出力はモノラルになります。

## ドルビーデジタル

ドルビープロロジックをさらに発展させ劇場用に開発された映画の音のフォーマットです。リア出力をステレオ化した上で周波数帯域を拡大、さらに低域を受け持つサブウーファー出力も独立して設けてあります（サブウーファーの出力は重低音効果が必要なときだけ動作するので0.1 chと数えられるため、「5.1 ch」と呼ばれます）。あらかじめ5.1チャンネルが分離された状態で記録されており、チャンネル間のセパレーションも良好です。さらにすべての音がデジタル信号で処理されるので、劣化しにくいという特長を持っています。

## デジタルシネマサウンド

映画館での迫力あるサウンドを家庭で楽しんでもいただくために、ソニーがデジタル信号処理技術を駆使して開発したサラウンドサウンドの総称です。音楽演奏用の空間をベースにした従来の音場再現と違い、あくまで映画を楽しむために開発されました。



# SURRボタン、LEVELボタン、SET UPボタンを使った設定

SURRボタン、LEVELボタン、SET UPボタン、+／-ボタンを使って、いろいろな設定ができます。詳しくは、下記の参照ページをご覧ください。

押す	設定項目	表示	設定値	参照ページ
SURRボタン	エフェクトレベル	EFFECT	0 ～ 15 (1段階毎)	29～30
	ウォールタイプ	WALL	S.8 ～ H.8 (1段階毎)	
	リバーブ	REVB.	S.8 ～ L.8 (1段階毎)	
LEVELボタン	フロントバランス	  BAL.	L+8 ～ R+8 (1段階毎)	30
	リアバランス	  BAL.	L+8 ～ R+8 (1段階毎)	
	リアレベル	REAR	-10 dB ～ +6 dB (1 dB単位)	
	センターレベル	CTR	-10 dB ～ +6 dB (1 dB単位)	
	サブウーファーレベル	S. W.	-10 dB ～ +6 dB (1 dB単位)	
SET UPボタン	スピーカーの種類	    	NORM.SP.、MICRO SP.	25～27
	フロントスピーカーの大きさ	 	SMALL、LARGE	
	センタースピーカーの大きさ		NO、SMALL、LARGE	
	リアスピーカーの大きさ	 	NO、SMALL、LARGE	
	リアスピーカーの位置	  PL.	SIDE、BEHD.	
	リアスピーカーの高さ	  HGT.	LOW、HIGH	
	サブウーファー	S. W.	NO、YES	
	フロントスピーカーまでの距離	  DIST.	1.0 m ～ 12.0 m (0.1 m単位)	
	センタースピーカーまでの距離	 DIST.	FRONT DIST. - 1.5 m ～ FRONT DIST. (0.1 m単位)	
	リアスピーカーまでの距離	  DIST.	FRONT DIST. - 4.5 m ～ FRONT DIST. (0.1 m単位)	



# 索引

## 五十音順

### あ行

主な仕様 35

### か行

各部の名称と基本操作 14

前面の各部の名称 14

リモコンの各部の名称 16

リモコンのボタン説明 17

故障かな?と思ったら 33

### さ行

サウンドフィールド

工場出荷時の設定に戻す 31

サウンドフィールドを選ぶ 21

サウンドフィールドを加工する

29~31

調節できるパラメーター 31

プログラムされているサウンド

フィールド 22

サラウンドサウンド 20~23、36

サラウンドパラメーターの調節 29

サラウンドを楽しむ 20

使用上のご注意 32

接続

5.1CH/SAT入力に接続する

8

スピーカーの接続を確認する

12

スピーカーを接続する 10

デジタル機器を接続する 7

ビデオ機器を接続する 6

スピーカーの設定 25~27

スピーカーのレベル調節

28~29

スリープタイマーを使う 19

ソースを選ぶ 14

### た行

デジタルシネマサウンド 36

テストトーン 12、28

電池を入れる 4

ドルビーデジタル 36

ドルビープロロジックサラウンド  
36

DVDプレーヤーの設定 7

### は行

箱から出したら 4

付属品 4

保証書とアフターサービス 34

“プレイステーション 2”の設定 7

### ま行

マルチチャンネルサラウンド

設定 25~27

表示の見かた 23

### や行

用語解説 36

### ら行

リモコン 16~18

レベルパラメーターの調節

28~29、30

## アルファベット順

LEVEL 28~29

SET UP 25~27

SOUND FIELD 21、22、  
29~31

UNLOCK 33







ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様相談センターへ

● ナビダイヤル…………… 0570-00-3311

(全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます)

● 携帯電話・PHSでのご利用は……… 03-5448-3311

● Fax …………… 0466-31-2595

受付時間：

月～金

9:00～20:00

土・日・祝日

9:00～17:00

<http://www.sony.co.jp/>

Sony Corporation Printed in Malaysia